

Handsome

CONTENTS ◆第4回『大山お地蔵さまフェスティバル』開催!! ◆特集シリーズ 中央会スペシャル
●45周年記念ゴルフ開催 ●トライアスロン出場選手紹介 ●会長連載「Spur」

◆鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 秋里武信 ◆編集責任者/担当 副会長 権田和志 ◆制作・編集 第44期広報委員会/委員長 恵比木 健



第4回『大山お地蔵さまフェスティバル』開催!!

若葉のつややかな新緑のなか5月19日(日)、大山寺参道周辺にて「第4回大山お地蔵さまフェスティバル」が開催された。当日は天候にも恵まれ青空のもと多くの会員家族・一般のお客様で賑わった。冒頭、秋里会長より「最高のコンディションとなった。お地蔵さまを磨き、触れることで、より一層ふるさとの愛着を持って貰いたい」と挨拶があった。続いて、秋里会長より新入会員へのバッジ授与が行われ、高見秀幸新入会員より力強い抱負をいただいた。

今回の事業は「子供たちが地域を愛するきっかけづくり」を目的に「お地蔵さま清掃」「にぎわい縁日」「はたらく車体験」「大山流しそば」「ステージイベント」「絵画コンクール・オブジェ展示」とバラエティ豊かな企画が満載だった。一番の目玉となる「お地蔵さま清掃」では、大山寺と大神山神社奥宮の参道沿いにある5カ所のお地蔵さまを各グループに分かれて巡り、それぞれのお地蔵さまの名前の由来の説明を受け、合掌してから清掃作業を行った。普段触れ

ることの無いお地蔵さまを嬉しそうに磨く子供たちの姿がとても微笑ましいひとときだった。清掃の後は、大山寺参道に設置した竹で組立てられた流しそば台にて、おいしい空気の中、大山流しそばに舌鼓を打った。またイベントの折々でマスコットキャラクター「にこっとさま」が登場すると、子供たちが嬉しそうに寄ってきて、写真撮ったり触れ合ったりと温かな雰囲気をつくってくれた。

大山流しそばが終わるとメインステージでは、各分野のご来賓の方々にプレゼンターになっていただき、表情豊かなお地蔵さまを描いてくれた子供たちを代表して、絵画コンクールの表彰式が行われた。続いて「淀江さんこ節」「ジュニアジャザサイズ」「リトルポップコーン」のキッズステージが行われたが、昨年雨天の為、出演が叶わなかったグループの皆さんは、リベンジと言わんばかりに昨年の想いも込められたようなダイナミックなダンスを披露してくれた。次に鳥取出身の元保育士ユニッ

ト「ロケットくれよん」が登場すると会場の熱気は頂点に。彼らの歌って踊れる舞台によって、会場の親や子供たちは一緒に踊ったり、カッコ良いポーズを決めたりと大変盛り上がったステージとなった。イベント終了時の子供たちの「またね～」の声を聞いたときは、お地蔵さまフェスティバルが継続事業で良かったと実感する瞬間だった。

本年度は実行委員会を組織せずに企画を地域ビジョン委員会中心で行い、当日はオール中央会による「おもてなし」の事業を行うことができた。イベントは継続事業としての礎を築くとともに、地元大山の素晴らしさを実感し、歴史を知る貴重な体験が出来る運営内容であった。参加してもらった子供たちが、10年後20年後もお地蔵さまプロジェクトの事を心に留め、この地域の事を好きでいてくれると思えるようなすばらしい一日だった。

(記事:本田)



大山お地蔵様フェスティバルを終えて

山内 正樹 (有)サンユービルド 専務取締役)



前日準備時に大山から吹き降ろす強風を目の当たりにし、正直なところ「またか」という思いを抱きました。もちろん室内開催での企画は準備していましたが、屋外開催をするということに秋里会長も私も迷いはありませんでした。その思いが届いたのか当日は風も止み、5月らしい晴天のなか開催することができました。来場者数も約300名と大盛況で、終日を通して子供たちの笑顔もたくさん見ることができました。

「お地蔵さまを通してこの地域の未来を担う子供たちが地域を愛するきっかけをつくる」その目的は十分に伝わったと感じています。そして今回の活動を通じ、第1回から積み上げてきた当会の継続事業が確実に地域に浸透してきたと実感することができました。

当日、足をお運びいただいたOB会員の皆様をはじめ多くの関係者の皆様、ありがとうございました。フェスティバルを引っ張った委員会メンバー、スタッフとして動き回っていただいた会員の皆様、本当にお疲れ様でした!



45周年記念ゴルフコンペ開催



45周年記念事業の一つとして、4月20日(土)、大山平原ゴルフクラブにて開催されました。当日は現役会員の他、OB会員、関係団体の皆さまにもご参加いただき、23組、総勢89名と賑やかなコンペとなりました。プレーヤーの皆さんは晴天の下、ナイスショットを連発され、多くの笑顔の中、気持ちよくプレーされていました。

夜にはスマイルホテル米子にて表彰式・懇親会が行われたのですが、表彰式・懇親会からのご参加も多くいただき、こちらも賑やかに行われました。表彰式では様々な部門の表彰があり、受賞者が発表される都度、会場内は大いに盛り上がりました。栄えある優勝は浅中OBでした。おめでとうございます。

1日を通じてOB会員、他団体の方々大いに懇親を深め、また当会創立45周年を振り返る場となりました。準備をしてこられた総務・45周年記念事業委員会と事業担当のビジネス経営委員会の皆さま、お疲れさまでした。

(記事:堀尾)

トライアスロン皆生大会 チームTSC参加決定

石田 倫章(株ウィルビー 管理課)

昨年に引き続き、現役会員がチームTSCとしてトライアスロン皆生大会に挑みます！

スイム・バイクは前年と同じく内田和也会員(㈱内田重機・代表取締役)・石田(当記事筆者)、ランは上村卓弘会員(ダイニチ技研・代表取締役)の布陣です。内田会員と上村会員は今期が卒会年度であり、今年の皆生大会は開催日がお二方の中央会現役最終日(7月14日)ということで、真に最後の大舞台となります。

昨年初参加して感じましたが、皆様から頂戴する応援の言葉が何よりの励みとなります。内田会員並びに上村会員へ特段のご声援お送り頂けますよう、よろしくお願い申し上げます。



中央会スペシャル



File.08

「U35の未来予想図」(前編)

語り手(U35会員)

長谷川恵一、新井翔太、足立鷹大
金子賢之、上田和人、徳中太慈

企画構成 青戸(リーダー)、石井、濱田、上村、石原

会員減少に危機感を募らせる中央会。これから10年以上、中央会を背負って立つU35(35歳以下)のメンバー6名にご協力いただき、それぞれが考える中央会の現在、そして未来について語っていただきました。言いにくいこともあったと思いますが、勇気を持ってリアルな意見をお話しいただきました。そして現在、私たちが取り組んでいる大きなテーマ「会員拡大」のヒントとなる話をたくさん聞くことができました。読者の皆さんも一緒に考えていただけたら幸いです。

「会に入って一気に視野が広がった」

—はじめに中央会に入会して良かったことを教えてください。

長谷川：社会人をしていて、自分ではそれなりに仕事ができると思っていました。でも入会して年長の方と委員会や例会運営をやってみて、自分がどれだけできていなかったかをまざまざと思い知らされましたね。やっぱり失敗もするし、自営業や家族経営だと真剣に怒ってもらえなかった。そういった環境に入れてもらえて、自分の能力、どれだけできていなかったかがわかったことは良かったです。

徳中：入会は若干強引(笑)なところもあったけど、最終的には自分で決めました。今思えば誘っていただいたことに本当に感謝です。5月で1年経ちますが…悪かったことはひとつもありません。特に現場を離れることもすごく大事なんだとわかりました。自分が抜けることで店が力強くなり、誰かがいないと何もできないということが徐々になくなってきて、一步成長できた気がします。全部自分がやらなきゃ!と思ってたんですけど、まわりが全然できる人たちだったというのが離れてみて初めてわかりました。

足立鷹：私も徳中さんと一緒に自分がやらないといけないと限界を作っていました。入会してからは事業も目白押しでとにかく時間を作らないといけなかった。従業員に任せたり、そのために今まで話してなかったことも話すようになって、会社としても成長したし、自分も限られた時間を有効的に使おうとするようになりました。

徳中：入会するときは店がどうなるんだろうとそのことしか頭

になかった。今では従業員も理解してくれて「絶対遅れずに行ってください」と言ってもらっています。本当にありがたい。入会できたことに感謝です。

足立鷹：まあ今思えばですけどね!当時は正直、自分は何してるんだろうか…と思ってました(笑)10年以上トップでやってきていたので、被り物したり人前で踊らされたりしたことなかった(笑)。

新井：4月例会での卒会者のお話にもありましたけど、最初はやらされている感もあるけど、参加することに意味があるんで、やれば必ず身にあるものがあるって、持ち帰れるものがあるんですよ。活動していて、この課題は自社でも起こりうるんだという場面もよくありますから。

長谷川：新入会員アトラクションを皆されたと思いますが、同期と言っても年齢が下手したら15歳くらい離れていて、立場の全然違う方たちと一緒に練習して、ほぼ対等に議論して、活動に関してもほぼフラットに取り組むことができるのは面白いし、中央会の良いところだと思います。

徳中：ずっと親父の下でやってきて、本当に外に出てなかった。講師の話の聞いたりした経験がなかったんですよ。色んなテーマでためになる話が聞けるのはありがたいです。

上田和：私の業界(農業)も狭いので、会に入って一気に視野が広がりました。こんなにたくさんの異業種の方と関わったり、今までにない経験ができる場所は貴重だと思います。

徳中：例会運営で段取りの大変さも知りました。団体競技は好きなので、みんなでガッツと集まって何かを作り上げるのは楽しいです。

「高い会費を払っても得るものが大きければいくらでも参加したい」

—それでは現在の中央会について、課題だと思われることを教えてください。

足立鷹：時代はすごいスピードで変わっていくと思いますが、商売する上で「人」が重要だと思ってるんですよ。入会してみても、経営者から社員までおられて、様々な企業があって、すごく謙虚な方もあれば、そうでないかなという方もおられますよね。私は目標とした方が何人かいて、その方々が卒会されても、自分は大きい企業にはできないかもしれないけど、謙虚さだけは忘れないようにしていきたいです。人としてのところは経済団体として崩してはいけない重要なところじゃないかなと思いますね。

長谷川：時代の流れは絶対ありますよね。私は会の中でスローな部分があることが気になっていて、もっとスピードが上がらないかなあと思ったことがあります。その部分を変えていった方がいいのかどうかは難しいところだと思いますが、会がこれから経営者だけでなく会社員もどんどん増えていくかもしれないし、これまでのように集まりにくくなるかもしれない。そうなったときにスムーズに事が運べるようにしていかなければならないのかもしれないし、時代に取り残されない会にならないといけ

ないと思います。

足立鷹：時代といえば、新入会員の立ち位置が…なんというか…「新入会員だろ」みたいなものもありますよね(笑)

長谷川：私はそれに関しては肯定しています。理不尽すぎる圧力はさすがにですけど、例えばビールを注ぎに行きなさいと言われて行って、話せない人と話すことができたとか。

足立鷹：それはそうなんですけど、また違ったところで違うものがね。立ち位置というか…過ぎないかなあ~と思うところが…。これからの20代とか耐えられるのかなあ(笑)

徳中：先輩方の言われる「出たら何かがある」「出ることに意味がある」というのも分かっているんですけどね。新入会員は、委員会や例会は休むと次が出にくくなるんじゃないかという不安があるようです。どうしても1年目は出ると凄いやつ、出ないとダメなやつ、出席第一主義というか…1回の欠席が大きいのかなと不安です。

上田和：各々時間を作って出る努力はしていますが、それでもやむを得なく出られないこともありますよね。欠席した後の空気感は…ありますね。

長谷川：厳しいことを言われる方もありますけど、誰かが「あれはこういう意味だよ」ってあとでフォローにきて

(前ページより続き)

くれたり、そういう委員会の雰囲気や救われることもありますよね。そういう人がいたら辞めずに済んだのかなと思う人もいますしね。

先日のゴルフコンペ表彰式の際の土井OB会長、宇佐見OBのお話にもありましたが、「中央会ができたのは、鳥取県には資源がないから、人材しかないからと立ち上げた。青年という冠がついているうちはいくら失敗しても良いんだよ」と。感銘を受けました。

金子: 会費のことですが、若い人に入ってもらおうと思ったときに、会社決済になって高いという理由で断られたことがあります。出費を抑えることによって、会費を見直すことはできないでしょうか。他団体に比べたら安いと思うんですけど、会費が理由のひとつにもあると思います。例会の時の弁当が本当にいるの？とか。

足立鷹: 私は逆に上げた方がいいと思うんです。消費税も物価も上がります。会費を払ってもこれだけのプラスがでるとか、どういうプレゼンをしていくか。会がこれから長く

続くためにも、どう魅力を伝えるかではないかと。会員拡大できないから会費を下げた方が良くなくなってしまおうと、会費が減った分、会員を増やしていかないとイケなくなってしまうからですね。

新井: 必要なら上げて良いと思いますが、本当に必要なのかという思いもあります。例えば委員会は毎月必要なのかとか。自分が役を受けていないからかもしれないですけど。役員会報告は各自確認するとか、担当例会が近いときは臨時委員会を開けばいいと思いますし。例会準備の為の委員会ではなく、委員会の内容をもっと濃くできたらいいですよね。

徳中: 高い会費を払っても得るものが大きければいくらでも参加したい、そういう人は多いと思います。こうやったら数字が伸びるとかそういう勉強がしたいです。委員会の中でも5分、10分でも勉強させてもらえたら、持ち帰ってプラスになればありがたいなと思います。

「人」に誘われ「人」に憧れ「人」に影響を受けて成長していく。会の繁栄には「人」がキーワードになりそうです。多彩で様々な力を持った人たちが一堂に会する、刺激的で素敵で魅力的な会だと思えます。10年後の中央会、会の存続のためにもっと何かできることはないか？後編ではそんな中央会の最大の課題「会員拡大」について議論します。
(記事:石井)

会長連載
Spur ~シュプール~
第44期 会長 秋里武信

軌跡

昨年の中時期、会長承認をいただき次年度の準備に追われ、不安とプレッシャーに押し潰されそうになっている中、先輩方から様々な叱咤激励をいただきました。その中でも、ポンと背中を押していただいた言葉です。

『目の前に、大きな壁があるように思っているだろうけど、大丈夫。壁なんてものは、越えられる奴の前にはしか現れない。だから、いくらデカい壁に見えても、越えられないと思っても、諦めたら駄目だよ。人は窮地に立たされた時こそ、目に見えない力が作用して救われるものだから。でも、その不思議な力を使うには一つだけ条件がある。それは、“直向さ(ひたむき)”。何事にも直向に取り組んでいれば必ず成し遂げられるから。お前なりでいい、とにかく直向にやってみよう』

この一年、いろいろな壁と対峙してきましたが、何とかここまで辿り着くことができました。振り返ると、目の前にあった筈の壁は無くなり、一緒に汗を流してくれた会員の皆様の姿が見えません。

ここにきて“不思議な力”の本当の意味が理解できたような気がします。

新店オープン!! 『勝田そば』



去る4月某日、晴天のお屋前に古都剛志会員の新店『勝田そば』に伺いました。会員手帳を確認すると古都会員のお仕事は「タイヤ小売り業」となっています。なぜそば屋を開業したのか!?興味津々で取材してきました。

お店に入るとすぐに券売機が。まず「機械打ち」と「手打ち」を選べるようになっています。「機械打ちでも十分美味しく値段も安いですが、ざるなど冷たい蕎麦はやはり手打ちが美味しいです」と古都会員。どちらも提供するという、ある意味大胆で合理的な考えに驚きながらも感心しきりです。

今回、私はおすすめの手打ちざるそばを頂きます。自腹なのでヨイショはしませんが、とても食感がよく瑞々しさのあるそばで間違いなく美味しいそば!!です。「毎日、仕事(タイヤ業)や中央会が終わった後、3時間かけて自分で打ちます。毎回、創意工夫しているので日々進化していると思います」とのこと。そば屋を開業したのは「もともと興味でしたし、何か自分で事業を起こしたいと考えて」という理由だそうです。

間違いなく美味しいそば屋さんですので読者の方も是非一度、足をお運びください!!
(記事:小谷)

店舗情報
「勝田そば」 営業時間:11時~14時 定休日:木曜
TEL:22-2300 米子市長砂82-1

〈新入会員〉

前田 孝二 O型 課長
 (株)中海葬儀社
 葬祭儀式全般・従業員スケジュール管理
 〒699-0101 松江市東出雲町掛屋17-3
 TEL 0852-53-0983 FAX 0852-52-7755
 (KT) 080-6321-8414
 (EM) info@chukaisougi.jp
 S59.04生

〈コメント〉この度、良い縁があり入会させて頂きました前田孝二と申します。委員会では、非常に好感のもてる方々の前向きな姿勢と意見交換を拜見し期待でいっぱいになりました。自身と会社の成長の力になると確信しております。仕事の都合で出席出来ない時もあるとは思いますが、皆様の期待にお答え出来れば幸いです。

高見 秀幸 A型 副参事
 (株)さんれいフーズ
 食品卸業
 〒683-0845 米子市旗ヶ崎2147
 TEL 33-2518 FAX 33-4363
 (KT) 080-6339-5062
 (EM) h-takami@sanrei-foods.co.jp
 S55.05生

〈コメント〉「豊かで輝く未来を」山陰酸素グループのグループ理念です。今までは誰かがつくってくれるものだと思っていました。しかしこれからは自らの手で、そして中央会の皆様とともに貪欲に学び、地域の豊かで輝く未来へ向かって前進します。よろしくお願いたします。

6月役員会報告

令和元年6月3日(月)米子市公会堂集会室5にて6月役員会が開催されました。主な議題は以下の通りです。

- ・お地藏さまプロジェクト開催の件
- ・6月例会開催の件
- ・45周年記念事業の件

※なお、詳細については各委員長までご確認ください。

編集後記

300名を超える来場者で賑やかに開催された第4回お地藏さまフェスティバル。毎年の恒例行事として、子ども達を迎え入れる事の出来る経済団体であり続ける使命を感じさせられた1日となった。子どもの笑顔と笑い声は、良いもんだ!!
(広報委員会 石原 効)